

にかほから  
 回り出す  
 未来への風

**主な内容**

- 新しい風（風力発電）……………P 2～3
- 平成24年度市役所の新体制…P 4～5
- まちの話題……………P 6～7
- 市役所から行政情報チャンネルP10～15  
 （児童手当ほか）
- くらしの掲示板……………P16～17

vol.158

2012

**4.15**

<http://www.city.nikaho.akita.jp>

＝関連ページ 2～3ページ＝

※特別な許可を得て撮影しています。

**がんばろう東北**

白瀬南極探検隊100周年記念特集

その貳拾貳 最終回



白瀬 轟  
 (1861～1946)

連載の終わりに  
 ～白瀬の精神を継ぐ～

未知に挑む  
 ～南十字星のもとに～



広報にかほでは白瀬南極探検隊100周年記念特集として、本市出身の白瀬轟中尉と南極探検隊の足跡を紹介してきました。今回で2年にわたる連載を終わります。

さて、明治の日本人の姿を描いたテレビドラマ『坂の上の雲』（原作・司馬遼太郎）が、白瀬100周年の期間に放映されました。主人公の秋山兄弟や白瀬は帝国軍人で、同世代でしたから、互いに面識があったかもしれない。『坂の上の雲』はこう始まります。

「まことに小さな国が、開化期をむかえようとしている」

明治維新から、無謀とも思える勢いで西洋列強、文明国の仲間入りを果たそうとした当時の日本の姿は、そのままた、小さな船で南極大陸を目指した白瀬の姿と重なります。日本中を熱狂させ、各国に驚嘆された白瀬たちですが、明治期の日本人だからこそ、成しえた

ことかもしれない。貧しさに悲嘆しない。志と誇りを胸に物事を成そうとする。何かのために命を捨てる覚悟。それらがまだ濃く残っていた時代。白瀬や秋山兄弟たちの姿を描いたミュージカルやドラマを観て、我々が心を動かされるのは何故でしょう。

白瀬たちの時代から数十年後、昭和32年の国際地球観測年。各国が南極観測事業に動く中、日本も同事業に参加することになります。太平洋戦争の敗戦国である日本が参加できたのは、白瀬たちの実績が認められたからこそでした。数百mの厚い氷に覆われた南極観測は、気候の変動など、地球の歴史を研究するものです。オゾンホールが発見を含め、その研究成果は、人類全体へ還元されています。

そして、白瀬たちの姿、生き様は、現代の子どもたちにも、生きるための強い力を与えてくれているのです。100年後、白瀬のふるさとで学ぶ小中学生たちの作文をご覧ください。

●第20回「白瀬中尉に学ぶ」作文  
 コンクール最優秀受賞作品から  
 抜粋（一部要約）

『わたしが今持っている目標は、学校の勉強での目標やスポ少での目標であって、白瀬さんのような「自分が大人になったときに、どんな人になりたい

のか」という将来的な目標ではない。（中略）今、頑張り続けることで、将来の自分の目標が定まったときにも、努力し続けることができると思う。』

平沢小学校 山下美咲さん

『世が大きく動いた明治という時代から生まれる野心や大望、不屈のハングリ―精神が彼という存在を生み出したのかもしれない。（中略）晩年、転居を繰り返した白瀬中尉の話には一片の愚痴や不平はなく、忍耐、挫折、貧困の中で何事にも無欲だった。この精神があったからこそ成し遂げられた偉業であったと思うと同時に、中尉が身をもって教えてくれた精神なのだと思います。』

象潟中学校 山田陸さん

本特集の参考文献

- ・白瀬轟『南極探検』
- ・南極探検後援会編『南極記』
- ・白瀬京子『雪原をゆく』
- ・武田康宏家資料
- ・「武田輝太郎日記」
- ・網淵謙錠
- ・『極・白瀬中尉南極探検記（下）』
- ・多田恵一『南極探検私録』
- ・アムンセン著谷口善也訳『南極点征服』
- ・羽咋市歴史民俗資料館蔵「野村（西東）船長の日記」

白瀬南極探検隊記念館  
 ☎ 38-3765

企画・編集／にかほ市広報委員会 発行／にかほ市役所  
 〒018-0192 秋田県にかほ市象潟町字浜ノ田1番地

☎ 0184-43-3200（代表） ☎ 0184-43-7510（直通）  
 電子メールアドレス info@city.nikaho.lg.jp  
 ホームページアドレス <http://www.city.nikaho.akita.jp>

広報にかほ は、にかほ市ホームページでもご覧いただけます